

2023年度事業計画書

自：2023年4月1日 至：2024年3月31日

1. 学会運営

(1) 学会運営基本方針

以下の運営基本方針を継続する。

- ① 世界をリードする実装技術のけん引役としての活動
- ② 幅広い技術領域をカバーしていることを活かし展開
- ③ 将来を担う若い実装技術者の育成と魅力ある活動の場の提供

今年度はコロナ禍後の世界となり、当学会も現地開催とオンラインのそれぞれの強みを生かした多拠点ハイブリッド開催を実施していくことを基本にする。MES2023、第38回春季講演大会、公開研究会、教育事業をハイブリッドで開催することにより、参加場所や方法の選択肢が増すことにより各イベントへの参加者増とより多くの方々へ情報発信が可能となり、更に学会活動を活性化していく。また、今年度は、日本の半導体・デジタルインフラ・デジタル産業が大きく変化していく中で、当学会も、時代の最先端の研究を進めるために昨年立ち上げた3Dチップレット研究会、今年度立ち上げるインターコネクション研究会等を中心に、先端技術を広め、各社会の発展に寄与すべく体制を整備していきたい。今後も、人と人との直接的な繋がりのお機会の提供と、オンライン活用により多くの人への最新情報を提供できるような活動を積極的に展開することを目指す。

(2) 総務委員会

持続可能な学会運営を行うためのすべての業務について、継続的な改革を実現していく必要がある。そのために、事務局一人一人のスキルを上げるのはもとより、デジタル環境の整備を積極的に実施していく。また、学会が持つ「情報資産」をどのように社会に還元できるかを改めて確認し、より多くの方々へ展開できる方法の検討を推進する。

(3) 財務委員会

今年度の予算については、コロナ以前に戻りながら、現地開催とオンラインによるハイブリッド開催を実現していく必要がある。この環境を整備し運用するために費用は増加する見込みだが、各種運営改善も実施しながら、より多くの参加を得ることにより学会全体の収益改善を実現していき、会員、各組織委員へのサービス向上を目指す。

(4) 広報委員会

学会からの情報発信を、公共向け、会員向けを更に強化していく。他学会との連携も視野に入れ、より多くの社会の認知度向上及び会員への情報サービス向上を図り、会員増強、イベント集客に繋げていく。また、海外向けホームページが完成したことにより、新たに海外からの各社イベントへの参加、論文投稿の増加を目論む。学会の国際的知名度向上のために国際事業委員会と連携し活動を推進する。

(5) 会員増強委員会

大会事業、展示会運営委員会、技術調査事業、教育事業、支部事業の各イベント開催を通じ会員増強活動を実施する。新規入会優遇キャンペーンを継続し、より多くの会員獲得を目指す。

【第3号議案】

(6) ミッションフェロー活動

設立10ヶ年を経て、講演大会およびMESにおけるミッションフェローセッションが定着してきた。あらたなメンバーも入り、学会活性化、会員増強にむけた、新規企画を継続的に検討する。

(7) JPCAとの連携

JPCAとJIEPは車の両輪のごとく、極めて重要なパートナーである。JPCA Showを起点に定期的な情報共有を行い、お互いの強みを活かし発展、成長させる。更に、JPCA会員に向け学会会員価格を設定し、学会で実施している教育事業、公開研究会等の積極的な参加を促すことを継続する。

2. 大会事業活動（定款第4条第1号関係）

春季講演大会、秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム（MES）、国際会議 ICEP、ワークショップを実施する。これらのイベントへの参加者および発表者の増加を図るため、各行事を現地参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリット型で実施していく。また、各大会の連携を強め、継続的な情報提供を強化し、更に新分野のセッションの企画などを強化していく。また、各大会の継続的な実施を図るためのステアリング委員会を整備していく。

(1) 「国際会議 ICEP2023」

新型コロナウイルス感染状況が落ち着きを見せてきたことから今年度は対面による現地開催のみとし、2023年4月19日～22日で実施する。今年は、熊本県での開催という事で、半導体産業の大きな成長を期待できる中心的な場所での開催となった。また、4月1日時点で論文投稿数が過去最多となっており、国内外から多くの参加を見込んでいる。

(2) 「第33回秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム」

2023年9月6日～8日 大同大学（名古屋市）現地会場とオンラインライブ配信とのハイブリットでの開催を目指す。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新の研究・開発の成果発表と情報交換の場を提供する。スマートプロセス学会と連携、特別講演を企画、各種のオーガナイズドセッションなどを充実し、多くの参加を期待している。

(3) 2023ワークショップ

修善寺WSは2023年10月12日～13日に、3年ぶりとなる修善寺での現地開催を計画している。実装技術、関連技術について、発表者と参加者と双方向のディスカッションにより理解を深めることができるイベントとして提供する。

(4) 「第38回春季講演大会」

2024年3月13日～15日 東京理科大学野田キャンパスにて開催を計画。実装分野の企業・大学・公共研究機関の最新技術開発の発表と情報交換の場を提供する。特別講演はもとより、ものづくり技術の紹介により企業からの発表者、参加者を増やすとともに、チュートリアルセッションにより若手研究者の参加者増も図り、活性化を目指す。現地とオンラインの併用開催を予定している。

3. 展示会運営委員会活動（定款第4条第1号関係）

【第3号議案】

JPCA Show と同時開催するマイクロエレクトロニクスショーの展示企画として、最先端実装技術シンポジウム、アカデミックプラザ、及び、eX-tech を5月31日～6月2日 東京ビッグサイト東館で実施する。 eX-tech、アカデミックプラザのブース展示についても同時開催する。なお、最先端実装技術シンポジウムは、講師の承諾を得た講演については、講演終了後 オンデマンド配信を計画している。

4. 技術調査事業活動（定款第4条第2号関係）

学会の基盤活動である技術委員会および研究会の活動を強化・活性化を実現する。前年に引き続き、技術委員会・研究会活動について、学会内外に発信し研究会相互の連携促進、研究会外、学会外との交流による活動活性化を図る。AI, IoT, ロボット&ドローン、ビッグデータ等、今日のテクノロジーの世界では、イノベーションが急速に進んでいる。このように変化が速い時代において、新たな知識や技術を貪欲に取り入れて時代の変化にうまく適応することが、勝ち残る秘訣といえるでしょう。当委員会も対面活動とオンラインのそれぞれの利点を十分に活用し、最先端の情報をタイムリーに発信できる環境を整備、拡充させる。

(1) 技術委員会の活動

12 の技術委員会を組織、実装技術分野の技術動向を調査し、それらの成果をまとめて学会誌特集号に掲載する。また、大会事業や展示会事業に委員を派遣し各イベントの企画運営を支援する。更に、教育事業委員会と連携し実装教育の充実にも協力していく。

(2) 研究会の活動

現行の26研究会にてエレクトロニクス実装技術領域の変化に対応する。基礎要素から応用までの幅広い実装関連テーマについて委員相互の技術情報交換、情報共有の場を提供する。

(3) 技術調査事業活動成果の普及

技術委員会および研究会の活動で得られた成果を公開研究会や学会誌等で広く公開する。

(4) 情報提供方法について

これまでの現地参加型の公開研究会とオンライン配信を組み合わせた多地点ハイブリットの実施を推進する。同じ場所に集まり情報交換の形式とともに、遠隔地からも参加しやすい環境を整備することにより、様々な情報が場所を問わず共有できる方法を充実させる。

5. 教育事業活動（定款第4条第3号関係）

将来を担う実装技術者、若手技術者を育成するために極めて重要であり、学会の果たすべき重要な役割である。5Gの本格稼働、IoT、AI等の実装環境も大きく変化を遂げてきている中、会員のニーズに対応した新企画AI2oT講座を実施する。

(1) 教育講座

実装分野の研究開発者の育成に寄与するため「PWB製造初級講座」と各種実装教育講座を実施する。また、技術運営委員会の協力を得ながら「実装技術総合基礎講座」をリニューアルした講座の立ち上げを実現する。

(2) 教育セミナー

公開研究会では、取り上げにくいテーマで、実装関連のセミナーを平易に解説する「実装」セミナーと、実装だけではなく、実装環境を取り巻く様々な問題を解説するセミナーも実施して行きたいと考えている。実施を検討する。

(3) 実習付き教育講座

実習付き教育講座については、演習時間を充実確保するなどカリキュラムを工夫して、継続実施する。また、テーマについても、「伝熱解析の基礎と演習」「AI2oT講座の開設（電子工学的AI実装）」の2講座を予定している。

6. 会誌発行委員会活動（定款第4条第4号関係）

【第3号議案】

学会活動のアウトプットとして重要であり、例年通り学会誌を7回、英文論文誌を1回発行する。今年度は、前年度実施した論文の早期公開、電子化を継続的に実施する。また、会員アンケートを実施することで、会員の要求、希望を把握し実現に向け検討する。英文論文誌は、海外への情報発信を強化継続するため電子閲覧での一般公開を継続するとともに、英文誌発行に先立ち論文毎に準備が整い次第公開し、査読完了から公開までの期間短縮を図る。

(1) エレクトロニクス実装学会誌の発行

例年通り、機関誌「エレクトロニクス実装学会誌」を7回発行する。研究開発活動の成果として研究論文、総合論文、速報論文、解説等を掲載し実装技術に関する最新情報を会員に提供する。学会主催の大会行事で発表した論文に対し積極的に学会誌への掲載を勧誘する等、論文数の減少に歯止めを掛ける。また、理事会はじめ学会活動状況についても広報する。

(2) 英文論文誌の発行

本学会の国際的な認知とプレゼンスの向上を図るため、引き続き、英文論文誌(Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging Vol.15-16)を発行する。電子閲覧を基本とし、学会ホームページ及びJ-STAGE(科学技術振興機構の総合電子ジャーナルプラットフォーム)から一般閲覧できるようにし、海外への情報発信を活性化する。更に、英文ホームページを準備し、より広く論文投稿を実施できる環境を整備したい。

(3) 日経テクノロジーオンラインへの抜粋版掲載

日経テクノロジーオンラインへの抜粋版掲載を継続する。海外への情報発信と技術普及を促進する。

(4) 収支改善

会誌発行事業の収支改善に向けた対策も急務である。前年から本格的に実施した電子化により広告等の掲載が減少しているため他の方法で広告を取り込む検討し新たな収入元を確保していく。

7. 国際事業活動(定款第4条第5号関係)

国際会議 ICEP を機軸に、IEEE EPS Japan Chapter, IMAPS との連携を継続する。また、パンパシフィック SMTA との情報交換も行い、日本で開催される国際学会との連携も含めて、関係強化を図っていく。これまで同様、IAAC(IMAPS All Asia Conference)を通じて、台湾、韓国との関係強化を進める。さらに、ASEAN 地域における学会活動拡大を念頭に、日系法人を中心にセミナー協力、技術情報提供など会員獲得を始める。

(1) 国際会議 ICEP2023

IEEE EPS Japan Chapter、IMAPS、IMPACT との連携、IEEE EPS Japan Chapter、IMAPS と、MOU 締結の手続きを行う。

(2) 国際事業体制

ICEP 開催に関して、ICEP Steering Committee を開催し数年先を見据えた体制を構築する。また、他の日本で開催される国際学会との連携も含め新たな仕組みを構築する。

(3) ASEAN 地域における学会活動展開

ベトナムなど ASEAN 地域における学会活動拡大を図る。英文ホームページを立ち上げを基に、今後日系法人を中心に会員獲得を進めるとともに、セミナー協力、技術情報提供など現地活動への協力を行う。

8. 支部事業活動(定款第4条第6号関係)

支部の主体性を尊重しつつ活動を推進していく。関西支部は前年と同様に若手研究会セミナー、技術講演会、実装フェスタ関西、ぷらっと関西を開催する。九州支部の独自イベントとし

【第3号議案】

て講演会などを他機関との共催で企画し支部会員の情報交流の場を提供するとともに産業界・大学と連携する活動を行う。北海道・東北支部は、会員増強のために支部としての活動強化、共催セミナーを通じて積極的な学会のPR活動を行い拡大を目指す。

更に、WEB開催の利点を活用し、各支部で技術運営委員会開催の公開研究会を他地点ハイブリットで実施できるような取り組みを実施する。

(1) 関西支部の活動計画

実装フェスタ関西 2023 (2023年7月6日7日開催)、若手研究会セミナー (開催日未定)、技術講演会 (開催日未定)、ぷらっと関西 (開催日未定) のイベントを実施する。実装フェスタ関西 2023 は、イベントの性格上オンラインでは十分なコミュニケーションが図れないとの判断により、現地開催のみにて実施する。この機会に対面で経験豊かな先輩を囲んでのナイトセッション等を企画し多くの方への情報を発信できるようにする。

(2) 九州支部の活動計画

九州支部の独自イベントとして、講演会などを他機関との共催で企画し、支部会員の情報交流の場を提供するとともに産業界・大学と連携する活動を行う。

(3) 北海道・東北支部の活動計画

北海道・東北地区の会員増強のために、宮城県との共催セミナーの実施、更に技術運営委員会と共催し北海道・東北地区でセミナーを実施する事で積極的な学会のPR活動等を行う。

9. 表彰委員会活動 (定款第4条第6号関係)

学会活動の活性化と研究開発者のモチベーションの向上のため、例年通り、エレクトロニクス実装に関する学術の発展および学会活動に対して功績のあった方に学会賞、功績賞、技術賞、論文賞、功労賞、およびマイスター賞を贈呈する。ICEP、大会事業、秋季大会 MES、春季講演大会についても、例年通り優秀発表者を表彰する。